

経営比較分析表（令和6年度決算）

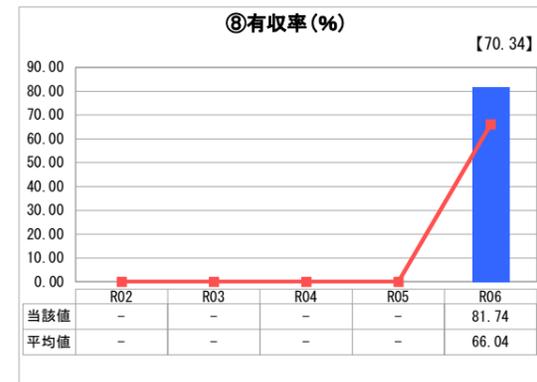
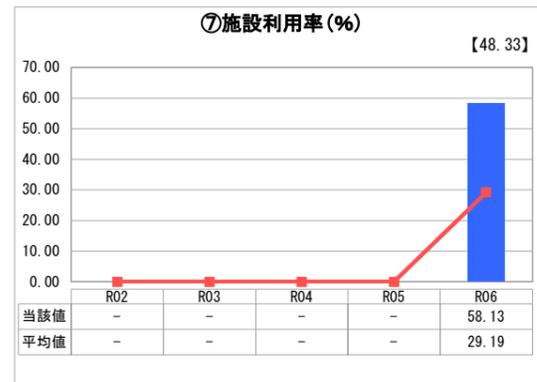
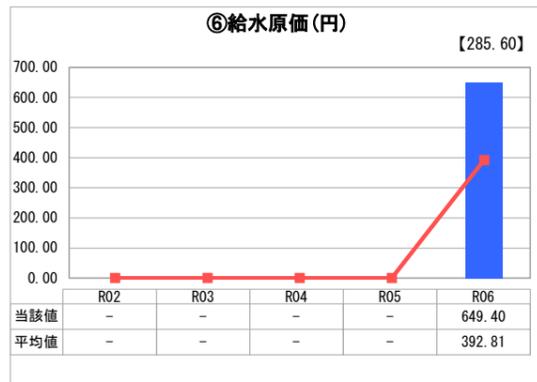
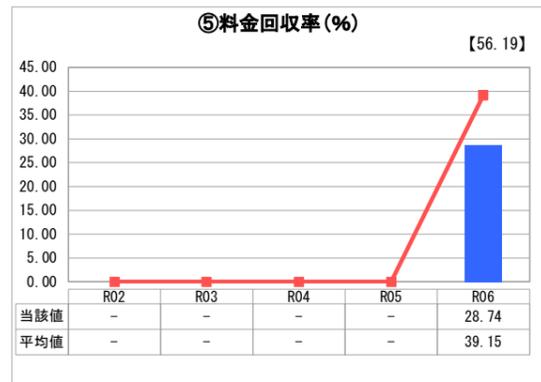
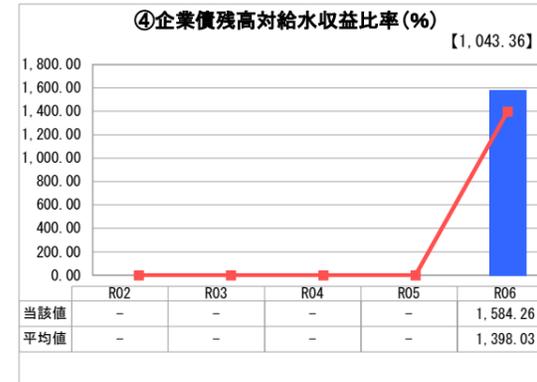
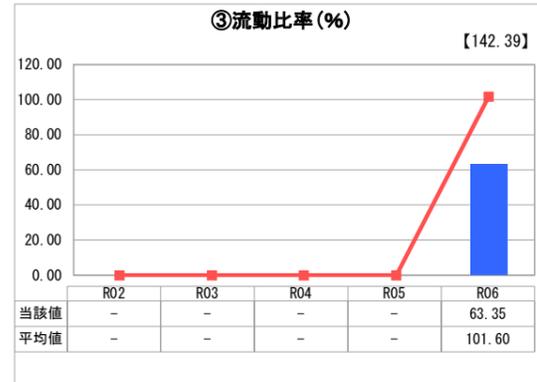
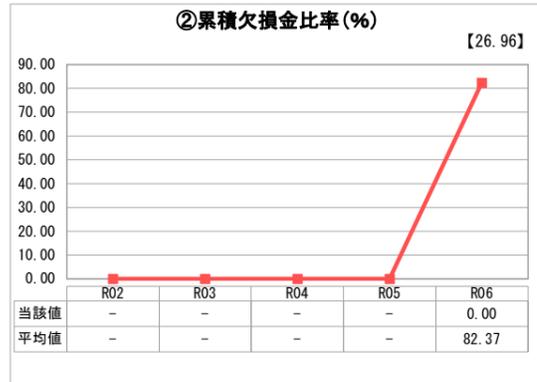
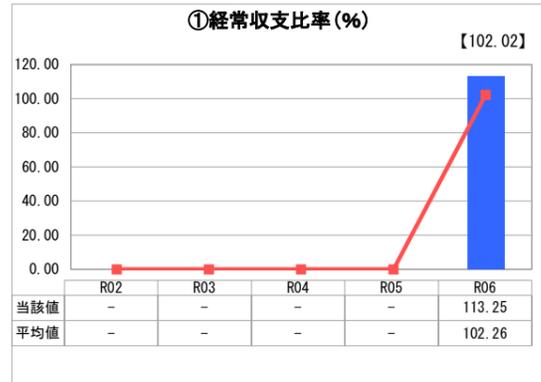
和歌山県 古座川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.20	36.64	3,212	

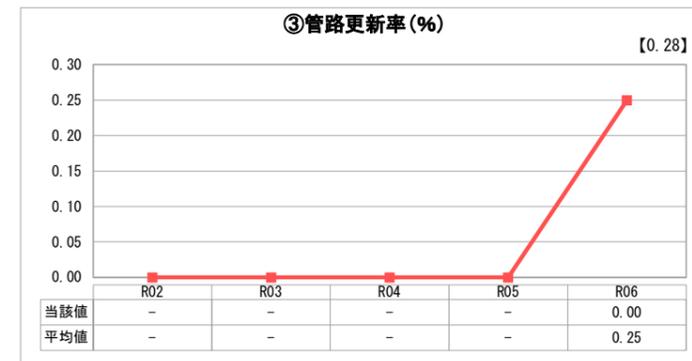
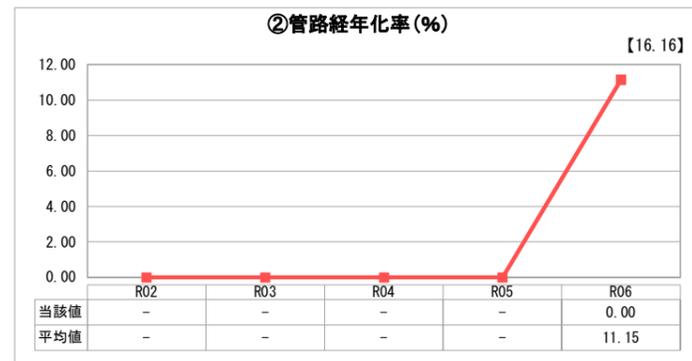
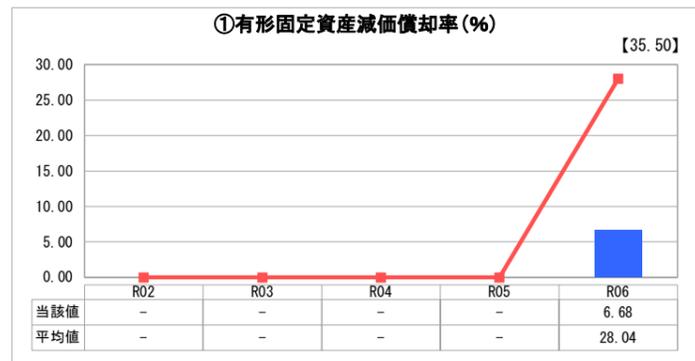
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,302	294.23	7.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
834	2.67	312.36

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
健全経営の水準とされる100%を上回っているが、一般会計からの繰入金に依存している状況である。
- ② 累積欠損金比率
なし。
- ③ 流動比率
短期債務に対する支払い能力は低水準であるが、一般会計からの繰入金を充てている。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
全国平均や類似団体平均より高い状況であり、今後も老朽化施設の更新等により、企業債残高の増加が見込まれる。
- ⑤ 料金回収率
全国平均や類似団体平均より低い状況であり、給水収益以外で収入不足を補っている。
- ⑥ 給水原価
全国平均や類似団体平均より高いが、経費削減が困難な状況となっている。
- ⑦ 施設利用率
比較的良好である。今後の給水人口減少踏まえ、必要に応じてダウンサイジング等の検討を行う必要がある。
- ⑧ 有収率
比較的良好である。今後も有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
平成25～30年度において2か所の水道を新規で整備したことにより比較的低い数値となっているが、今後は老朽化施設の整備が必要である。
- ② 管路経年化率
明確な数値が把握できていないため0となっているが、今後は経年管路を把握する必要がある。
- ③ 管路更新率
管路更新ができていない状況である。今後は計画的に老朽管路を更新する必要がある。

全体総括

給水収益だけでは事業運営ができないため、一般会計繰入金に依存している状況である。今後も給水人口の減少が予測されるため、一般会計からの繰入を受けつつ、水道料金の改定を検討する必要がある。施設に関しては利用率や有収率は良好であるが、老朽化した施設の更新を行う必要がある。国庫補助金等を活用し財政状況を考慮しながら更新を検討する。公営企業に携わる人材確保については人員不足により困難な状況となっている。また人件費の増加や物価高騰により営業費用の増加が見込まれるが、これ以上の経費削減は困難な状況となっている。